

## 保育のヒント～「科学する心」を育てる～

### 自ら関わる／認定こども園みくに学園

新年度のスタート！進級、入園当初は、子どもも保育者も、緊張や戸惑いの場面があります。

それでも、園には子どもたちの興味や関心を引く、魅力溢れる環境があるので、子どもたちは自ら心を動かし夢中になって遊ぶようになります。

今回は、戸外遊びへの関心が薄いと思われる子どもが、戸外や地域へと興味や関わる環境が広がった事例をご紹介します。



### ● 「根っこってすごい」「5歳さんすごい」／3歳児

園舎内が好きなAちゃん。ある日、園庭に行く保育者に「何をしているの？」と声を掛ける。

#### 保育者の関わり

戸外遊びが見られないAちゃんからの言葉に、「おじいさんは芝刈りに」と言う。

Aちゃんはすかさず、「ぼくも芝刈りに行きたいです」と言い、園庭に付いていく。草抜きをする保育者を見て「やりたいです」と言い、草を抜き始める。何度か挑戦するが、抜くことができない。

#### 保育者の関わり

Aちゃんを意識しながらも、草抜きをする。戸外遊びをすることがなく、いつもなら諦めてしまいそうな場面だが、挑戦しているので、一緒に草抜きを続ける。

5歳児Bちゃんは「俺がやってやるよ」と言いながら草を抜き始める。Bちゃんが簡単に抜く姿を見たAちゃんは尊敬の眼差しで「すごいね」と言う。Bちゃんが「両手で持って、思いっきり引っ張るの」と満足げに言う。

#### 保育者の関わり

簡単に抜けた草を見て、「すごいね」と尊敬の眼差しで5歳児に言う関わりの様子を見守る。

そのうちAちゃんが、土の付いた根っこに気が付き、「おじいちゃんの髪の毛みたい」と言うと、「じゃあ洗ってみようか」と、Bちゃんと根っこを洗い始めた。見る見るうちに白い根が明らかになった。Bちゃんは根を見ながら、「ここから栄養を取るの」「今度芋掘りに行くけど、もっともっと泥だらけだし、お芋は重いし」などと自分の経験を誇らしげに説明する。Aちゃんは大事そうに雑草を持ち帰った。

### 保育者の読み取り

根が長く伸びているのが驚きだったようだ。普段何気なく見ているものでも、その下の根を見て、「こんなものが存在している」と知り、初めて、「不思議、なぜ？」という気持ちが芽生えたようだ。

数日後、Aちゃんは家に持って帰って枯れた草を、再度園まで持ってきた。そして保育者に「死んじゃったので、生き返らせてください」と言った。家に持ち帰って、ベランダに放置しておいたのを見付けて、またまた興味が出てきたようだ。

5歳児が、「バケツの中に入れてみよう」「花壇に入れてみよう」「バケツに土を入れなきゃだめだよ」などと様々な意見を出してくる。「Aちゃんはどうすればいいと思う？」と5歳児に聞かれたAちゃんは、しばし考えて「土の中に入れる」と言った。そして、「じゃあやってみよう」と、枯れた草をゴーヤの脇に植えた。ゴーヤはどんどん成長するが枯れ草はどんどん抜け落ちはがれていってしまう。それでも、毎日登園の時に眺め、暇があると園庭に出ては眺めている日が続いた。



### 保育者の読み取り

気が付けば園の環境を自分のものにしていく。

その後、駅前のデパートからグリーンカーテン作りに参加するお話があり、園児たちが、プランターにゴーヤと朝顔を植えるお手伝いをする事となった。説明を聞いて子どもたちみんなで植えて、水遣りをした。

ちょうど登園のコースにあるグリーンカーテン。それから毎日、Aちゃんはデパートと園の両方のグリーンカーテンの成長ぶりを家と園で報告することが日課となった。

又、帰り道にはデパートの職員と会話を進めるようになった。それから、いろいろな話を次の日に園でしてくれるようになり、3歳児なりに、家と園だけではなく地域にも少しずつ仲間入りができ始めた。



## ✦ 考察

戸外への興味が薄かったAちゃんが、保育者の姿に興味をもち、戸外の自然環境に心を動かす機会ができた。さらに、魅力的な姿を見せて一緒に遊ぶ5歳児の関わりにより、抜かれた草は大事な存在になった。この経験により、草だけでなく栽培物のゴーヤにも関心が向き、地域のグリーンカーテン作りや地域の人との関わりへと広がっていった。この事例から、興味の対象への関わりを丁寧に見取ることが、子どもたち一人一人の成長を捉えたり理解したりすることに結び付くことが分った。



無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」